

<白金標準、陰の極入りで巻き戻し相場・・・>



(出所：オアシス)

ホルムズ海峡においてイラン革命防衛隊が航行する3隻のタンカーにミサイル攻撃を行い、60日間の停戦条件である自由な海峡航行を妨げたことから、米国軍はイランの軍事施設など170ヵ所以上を空爆している。トランプ大統領は「停戦は終わった」と発言するなど、中東における地政学的なリスクの高まりを受け、原油高：金利高の逃避の動きが強まり、7714円まで下値を試した白金標準先物は8401円まで戻りを見せるも、逃避から再度7902円まで売られている。ただNY白金で1600ドルの抵抗を見せ、白金標準先物も8000円の抵抗を強めるなど、悪材料を受けるも下げ渋るなど、相場の転換を示す「陰の極入り」に近い動きを見せている。また開催された上海プラチナウィークでは、中国市場におけるプラチナ地金およびコイン市場が急速に拡大し、同国では2018年にはごくわずかな規模であったが、近年には推定404000オンス（12.5トン）にまで成長すると見込まれており、またプリント基板の需要拡大を通じてAIがPGMの需要を牽引している実態が挙げるなど、需要の拡大を示す報告がなされており、需給を無視して外的なリスクだけで売り込まれた価格は、自律反発の域に達したことから8401円に向けて戻りを強めて来ると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが上昇し、シグナルも上昇している。RCIでは短期が下げるも、長期は切り上げている。特に指数平滑移動平均線のレンジが縮小しており、反発に備えるのが妥当に思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,275,000 円(2026 年 7 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 95,040 円(2026 年 7 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>